

楽しく、気持ちよくテニスをするために 2025

JLTF兵庫県支部 審判部

2025年4月改訂

スポーツマンシップに則って、正々堂々と試合に臨みましょう！！

セルフジャッジの試合では判定する審判はいません。選手自身が審判しながらプレーします
相手、ルール、審判をリスペクトし、フェアな態度でプレーすることが大切です
選手一人ひとりのスポーツマンシップが試されています
* セルフジャッジの5原則を遵守しましょう！



フットフォールのコール

ロービングアンパイアの仕事としてコートの中からだけでなく**コートの外**からもフットフォールをコールします
* 審判にコールされないように、日ごろのプレーで気をつけましょう

試合中の判定

判定は速やかに正確に！わからないときは相手の有利に判定するのがルールです
うっかりミスジャッジをしすぐに訂正した時、返球が相手のコートに正しく返っていたときのみ
1回目はレット・ポイントのやり直し、2回目以降は失点になります
ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショット・エースまたは返球が
正しく相手のコートに入らなかった場合は1回目であってもミスジャッジをしたプレーヤーの失点になります
ロービングアンパイアのオーバールールでポイントのやり直しになるのは返球が相手コートに正しく返った時のみ
ペアで判定が食い違ったら、失点です
ノットアップ、タッチ、レット、ファールショットは両選手(チーム)がコールできますが100%確信がある場合のみ

隣のコートからボールが入ってきたら(外からの妨害)

妨害が起こったらすぐにレットのコール(両選手、チームがコールできます)
ボールを打った後にレットのコールがあり、そのボールがアウト、ネットした場合は打った選手の失点
セカンドサーブを打とうと動き出した時にレットのコールがあったら、ファーストサーブ
(サーブを打とうと動き出す前ならボールを取り除いてセカンドサーブ)
妨害が起こったときに誰もレットをコールしなければ、両選手、チームが妨害されていないことになります

持ち物を落としたら(選手自身が起こす妨害)

落とした選手はレットをかけられません。相手選手がレットのコールをします
1回目はレット ポイントのやり直し、2回目以降は失点(ダブルス時はペアで数える)

試合中は紛らわしい声、動作で相手を妨害をしない(選手自身が起こす妨害)

* 相手がスマッシュを打とうとしているとき「ケア～！」「キャ～、やめて～」⇒失点
* 相手がレシーブするとき「サイドケア～！」「ロブケア～」⇒失点
* ラリー中、決まったと思い「カモン！！」「よし！！」⇒失点
試合中は判定時に必要なコールのみ (アウト、フォールト、レット、ノットアップ、コレクションなど)
声や動作で相手のプレーを妨害しない(審判の判断で失点になることがあります)
ダブルス時 ペアへの声掛けは相手の気にならない程度にしましょう

決められた時間を守りプレーしましょう

スタートオブマッチ(1-5-1ウォーミングアップルール)に従う
両選手がコートに到着後、決められた時間で試合を開始するルールを守っていますか？
* コートに入ってから着替える、テーピングする⇒相手を待たせないでトスをし、試合を開始する
* ウォームアップ前後の1分を経過した選手に“スタートオブマッチ バイオレーション”が科せられる
ポイント間、エンドチェンジ、セットブレイクの時間を守る
* ダブルス時 ペアとの話し合いに時間を取っていませんか？
* 対戦相手が立ち上がるまでベンチに座っていることはありませんか？
* ノード時、レシーバーサイドの選択に時間を取っていませんか？
審判に注意されることがないよう自主的に時間を守りましょう
* 注意を受けた後も時間を守ることができなかつたらペナルティの対象になります